



「一人一人の個性や能力を生かすために」

パラリンピック

1948年7月、ロンドン五輪開会式と同日に、イギリスのストーク・マンデビル病院の脊髄損傷科のルードウィヒ・グットマン卿が、第2次世界大戦で負傷し、車いすで生活していた16名の兵士達のリハビリとして、アーチェリー大会を開きました。

「手術よりスポーツを」の理念の下、開かれたこのアーチェリー大会が、現在のパラリンピックの起源です。

1985年にIOCは、正式にパラリンピックと名乗ることに同意し、2020年には、東京でパラリンピックが開催されます。



かつては医学的な見地から体の不自由な人が、スポーツをすることに否定的な考え方が存在しました。しかし、スポーツをするかしないかは、決して、周りが決めることではなく、本人が自分の価値観で決め、自分の人生を歩いていく、誰もそれを否定することはできません。これは、障がい者に限った話ではありません。



世界中の人々が、愛・平和・スポーツの意義を相互に理解し、世界最大の障がい者スポーツの祭典である「パラリンピック」を通して、みんなが平等に、幸せに生活ができる、よりよい社会を創っていくことが大切ではないでしょうか。

宇陀市人権啓発活動推進本部

